

令和2年度指定管理者評価シート

1. 管理運営の状況等

(1) 施設名	老人福祉センター槻寿苑、槻寿苑デイサービスセンター
(2) 施設概要	<p>①所在地 さいたま市岩槻区大字笹久保1393番地</p> <p>②施設の設置目的 【老人福祉センター】 高齢者に対して各種の相談に応ずるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与する。 【デイサービスセンター】 老人福祉法に規定する基本理念に基づき、老人デイサービスセンターの利用者の健康で安らかな生活の維持向上に寄与し、福祉の増進を図るための施設。</p> <p>③事業内容 ・老人福祉センター ・老人デイサービス事業(定員15人) ・生きがい活動支援通所事業</p> <p>④施設の概要 開設年月 昭和63年5月 延床面積 1,634.55㎡ 構造 鉄筋コンクリート造平屋建 一部鉄骨造</p>
(3) 指定管理者	社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団
(4) 指定期間、指定管理料	<p>①指定期間 令和2年4月1日～令和7年3月31日</p> <p>②指定管理料 令和2年度 83,198千円</p>
(5) 施設の管理運営の内容	<p>①運営常務の状況 ◇利用状況 ・老人福祉センター 利用者数14,635人(前年度 51,858人) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月1日～5月31日及び12月26日～3月21日休館 ・デイサービスセンター 延利用者数1,442人(前年度 1,828人)</p> <p>◇業務実施状況 ●老人福祉センター 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館・利用制限により、利用者数が減少したが、安心・安全な施設運営に配慮しながら、地域の高齢者に、利用者の相互交流と教養の場を提供し、介護予防と生きがいづくりの支援をした。利用者のニーズを把握するため利用者アンケートを実施し、サービス向上に努めた。利用者の健康増進活動を支援するため、ロコモ予防のための教室等を実施するなど、自主事業の充実を図った。</p> <p>●デイサービスセンター 介護保険利用者に対し、食事、入浴等のサービスを提供し安心して在宅生活を送ることができるよう支援した。また、介護保険サービスを検討している方やそのご家族に対しては、安心した在宅生活を送るための援助及び家族介護負担の軽減を図ることを目的に相談対応を行うとともにサービス内容等の説明を行った。</p> <p>②維持管理業務の状況 法令に基づく建物・設備の法定点検や維持管理を計画的に実施し、水道及び灯油、清掃等の管理は、毎日記録して確認を行っている。感染拡大防止</p>

	を徹底するため、「高齢福祉課所管市民利用施設に係る利用再開ガイドライン」に即した感染対策を行い、設備・器具等の消毒を実施した。衛生面においても施設内の環境整備・事故防止を徹底した。
	③その他の業務 老人福祉センター施設内のデイサービスセンター・居宅介護支援事業所（自主事業）と連携し、看護師による健康相談・ケアマネージャーによる介護相談を実施した。高齢者が日常的に利用できる社会資源の情報提供を行うとともに、生活相談を行った。地域包括支援センターとも連携し、地域の高齢者のための支援体制に努めた。
(6) 収支状況	①収入 ・老人福祉事業収入 9千円 （前年度 89千円） ・介護保険事業収入 15,674千円 （前年度 17,438千円） ・指定管理料 83,198千円 （前年度 81,292千円） ・その他の収入 6,221千円 （前年度 1,744千円） ②支出 ・人件費 45,618千円 （前年度 39,895千円） ・事務費 3,501千円 （前年度 2,354千円） ・施設管理費 37,651千円 （前年度 39,948千円） ・事業費 6,589千円 （前年度 8,753千円） ・繰入金支出 6,147千円 （前年度 6,046千円） ・その他の支出 726千円 （前年度 1,123千円）
(7) 利用者アンケート等による 市民からの意見・要望等 への対応	●老人福祉センター 意見箱「みなさまの声」ボックスの設置、「利用者アンケート」の実施により、常に利用者の意見・要望に耳を傾け、誠実に応えとともに取組可能な意見を積極的に取り入れた。また、意見に対する回答について、掲示や説明を行った。 ●デイサービスセンター 意見箱「みなさまの声」ボックスの設置、「利用者アンケート」の実施とともに、ご利用者及び地域住民並びに関係機関が参加する運営推進会議の場や送迎時、訪問の際などにご本人・ご家族からお伺いする機会を設け、内容について対応、改善するとともに、掲示又は直接説明により回答を行った。
(8) その他	

2. 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
介護予防の促進・健康づくりの推進	<p>●老人福祉センター</p> <p>①デイサービスセンター看護師による健康相談を第2・第4金曜日に実施した。また、居宅介護支援事業所（自主事業）ケアマネージャーによる介護相談を第1水曜日に実施するとともに、随時相談を受け入れた。</p> <p>②ロコモ予防のための転倒予防教室やレク・ストレッチ教室を定員数の減や入替制にして実施し、介護予防を推進した。</p> <p>③健康体操を毎日昼休みに職員と利用者が一体となって行い、手軽に無理なく実施できる運動として提供し、健康増進を支援した。</p> <p>④老人福祉センター利用者に、デイサービスセンター常駐の生活相談員による、日常生活相談を実施した</p> <p>●デイサービスセンター</p> <p>①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、併設の老人福祉センターとの交流はできなかったが、通常行事等において日常生活意欲の向上を図った。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症拡大防止のため施設外活動は自粛し、苑内の活動については、ソーシャルディスタンスを保つなど感染予防を徹底し活動した。</p>

<p>教養の向上・レクリエーション活動の支援</p>	<p>●老人福祉センター 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「高齢福祉課所管市民利用施設に係る利用再開ガイドライン」に即した感染対策を行った。提案の具体的取組である演芸大会等の大規模イベント、バス旅行、クラブ活動、みんなで歌おう合唱タイム及びありがとうコーナー等が中止となったが、安全・安心な施設運営に配慮しながら、利用者の個別相談や団体への相談を行い、教養の向上・レクリエーション活動の支援に努めた。 ①教養講座として文化教室を定数減にて開催し、ボランティア講師による手芸・折り紙などの教養・趣味活動を行った。 ②他の老人福祉センターと共同し、さいたま市文化振興事業団との共催によるアウトリーチコンサートを実施した。 ③和楽荘が中規模修繕により休館となった間、槻寿苑へのバス送迎により、利用者の受け入れを行い、槻寿苑自主事業への参加を促し、支援を行った。</p> <p>●デイサービスセンター ①ご利用者様からのご意見やご要望を取り入れた行事・レクリエーションを実施した。 ②新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、おやつ作り、老人福祉センターの演芸大会等は中止となったが、施設内で楽しみながらかつ機能訓練を兼ねたスカットボールや輪投げなどのレクリエーションを実施した。 ③年1回実施の創作品展にご利用者全員で取組んだ作品を今年も出展し、目標達成を実感した。 ④夏祭りでの盆踊り、和太鼓体験や運動会、芋ほり体験等、季節にちなんだ行事を行い楽しみながら実感していただいた。</p>
<p>地域との連携</p>	<p>●老人福祉センター 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、提案の具体的取組である区民まつりの参加や各地区社協の敬老会が開催中止となり、予定していた交通安全教室も休館により中止となったが、安全・安心な施設運営に配慮しながら、地域との連携を図った。 ①近隣の障害施設による物品販売を行い、障害者支援を行った。 ②区在宅介護支援センターと連携し、転倒予防教室やうんどう教室を実施した。 ③区避難所運営委員会に参加し避難所の運営と役割を担うとともに、避難施設確認会を市職員と開催し、地元自治会に施設を周知し、地域連携を図った。</p> <p>●デイサービスセンター ・運営推進会議については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から12月に書面での開催を実施し、ご利用者様家族、区高齢福祉課、地区社協、地域包括支援センター職員(合計7名)の参加を得て、ご意見・ご提案等を踏まえサービスの向上を図った。</p>

3. 評価

(1) 指定管理者による評価

●老人福祉センター

地域の高齢者のコミュニケーションの場として、また、生きがいづくりの場として施設の役割があり、健康づくり・仲間づくりなど自主事業に加え地域の老人クラブ、自治会等の諸団体との連携を図り、利用者が当施設を憩いの場として毎日行きたいと思える施設運営に努めた。

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、老人福祉センター所長会議を臨時に開催し、利用再開に向け、現場の意見を提出し、対応を協議した。「利用再開ガイドライン」の改定時には、所長会議や実務担当者会議を開催し、情報を共有し、ガイドラインに即した施設運営を行った。安心安全面に配慮し、設備・器具等の消毒を頻繁に行い、感染防止対策を徹底した。

・利用者の健康増進活動を支援するため、利用者のニーズに沿ったロコモ予防のための転倒予防教室や健康体操を感染対策を徹底しながら実施した。

・団体の活動については、部屋利用は12月を除いて中止となったが、グラウンドの利用が202回、3,628人の参加があった。また、個人の利用を合わせた、利用者数総数は、14,635人、1日平均80.9人の参加があった。(開催日数181日)

・経費削減の面では、施設全体における水道光熱費の節減のほか、保守管理等の業務委託について、複数の施設と仕様書を統一し、入札等契約事務を取りまとめることで、契約事務の効率化やコストの削減を図り、効率的な経費の執行に努めた。

●デイサービスセンター

・年間の計画に基づき、デイサービス内で可能な、運動会、敬老会、クリスマス会、季節に合わせたさまざまな事業を行い、ご利用者様の希望に沿った行事の実施に努めた。

・機能回復訓練としては、毎月行う壁画製作やカレンダー製作等での工作による手指運動の実施、音楽を通じたレクリエーション活動により、楽しみながら機能の維持・回復ができるように常に検討・実施・評価を行った。

・当センター事業に対する理解を深めていただくため、他居宅介護支援事業所及び該当する地域包括支援センターへのパンフレットの配布や、デイサービスの見学事業(ご希望者に対しては送迎を提案)の実施、地域の方への広報や埼玉県老人ホーム作品展への出展により、情報発信に努めた。

・本人の希望により長期欠席をされているご利用者様に再開の際、安心して来苑いただけるよう定期的な電話連絡・訪問を行った。一人暮らしのご利用者様に対しても、送迎時に戸締りの確認、欠席時の様子の確認や担当ケアマネージャーへの報告、生活状況の確認を目的とした訪問など、独居利用者が安心して来苑できるよう配慮した。

(2) さいたま市の評価(評価担当課:保健福祉局長寿応援部高齢福祉課)

総合評価(B)※A～D

【市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進等に関する取組】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、老人福祉センター所長会議を臨時開催し、高齢福祉課策定の「高齢福祉課所管施設市民利用施設に係る利用再開ガイドライン(以下、「ガイドライン」とする。)」の改定時には所長や実務担当者による会議を開催しガイドラインに即した施設運営を行ってきたことを評価した。また、デイサービスセンターにおいては、感染予防対策を徹底し可能な範囲で行事を実施したことを評価した。

【経費の削減に関する取組】

予算額と決算額との乖離が僅かであり、概ね適切であると評価した。

【適正な管理運営の確保に対する取組】

複合施設であるため、新型コロナウイルス感染予防を徹底し、ガイドラインに即した設備・器具等の消毒を実施したことを評価した。

(3) 来年度の管理運営に対する指導事項等

引き続き適切な管理運営に努めて下さい。